

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信  
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会  
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

---

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
  - ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
  - ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
  - ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp
- 
- 

□ 目次

- (1) 新委員長・新委員就任のご挨拶
  - (2) 第 14 回図書館利用教育実践セミナーのご案内
  - (3) 第 13 回図書館利用教育実践セミナー (in 京都) のご報告
  - (4) 2009 年度図書館利用教育委員会事業計画
  - (5) 第 171 回図書館利用教育委員会議事録
  - (6) 第 172 回図書館利用教育委員会議事録
  - (7) 図書館サービス・ツール研究会からのお知らせ
  - (8) 図書館利用教育文献一覧 (2009 年 2 月～7 月発行分)
  - (9) 編集後記
  - (10) 図書館利用教育委員会委員
- 
- 

- (1) 新委員長・新委員就任のご挨拶

委員長就任のご挨拶

野末俊比古

今年度、委員長を拝命しました野末です。よろしくお願いいたします。

本来ならば、私以外の適任の委員、とりわけ図書館界で諸経験豊かな方に就任をお願いすべきところかと思いますが、当委員会委員の経験年

数については、現在、私が最長であることから、お引き受けした次第です。

私の本務は、大学教員です。現在、青山学院大学教育人間科学部において、主として図書館情報学関連の科目を担当しております。研究については、大学院時代から15年以上、「図書館利用教育・情報リテラシー教育」をテーマとしております。

当委員会が20周年を迎える節目の時期に重責を担うこととなり、少々緊張いたしております。このメールマガジンをお読みの方々をはじめ、委員OB・OGを含め、ご関係の皆様のご協力を得ながら、委員会のめざす図書館利用教育の普及・啓発に向けて、微力ながら貢献していきたいと思っております。改めましてどうぞよろしく願いいたします。

---

委員就任のご挨拶

福田博同

新委員の福田です。利用教育と言うとなぜか「絵解き」を思い浮かべます。

平凡社『世界大百科事典』CD-ROM版によると、承平元(931)年に重明親王が貞観寺に参詣の際、寺僧から「釈迦八相図」を絵解かれた記事が現存する最古の記事で、出典は『李部(りほう)王記』(醍醐寺雑事記所収)、とのことでした。

「絵解き」こと案内僧や学芸員と同様の役割を持つ図書館員はレファレンスワークとして、記事の信憑性を調査し、現物を見て結果を知りながら調査方法を利用者へ伝えます。しかし、それは旧来の方法でしょう。世界的に電子図書館を構築しつつある現在、図書館員でなくとも以下のことまでもwebで調査できます。

googleで「醍醐寺 重明親王」を検索→「吏部王記 - Google ブック 検索結果」から米田雄介、吉岡真之編『吏部王記』の本文の大部分が表示され→承平元年の項に「9.30 醍醐天皇の山陵に参拝、勸修寺・貞観寺を巡拝す[醍]、 、 」の記事を発見。

「李部王記」と「吏部王記」の違いを確認するため、googleで「李部王記 wiki」と検索→wikipediaの「吏部王記」に、複数書名の存在と、典拠の古代学協会編や米田・吉岡編の『吏部王記』刊本も示されます。wikipediaの現時点の記事が正しいか、東京大学史料編纂所の「大日本史料総合データベース」で「重明」を検索→『本要記』保安二年一月二十一日の条に「，，，兵部禪門云、李部王ハ重明親王也，，，」とあり原本もTiff画像で見ることができます。

写本の所蔵はwebcatで筑波大学を確認。webで『醍醐寺雑事記』は塙保己一の『群書類従』25輯「雑部」（刊本）をも確認します。そこには「延長九年（承平元年九月三十日）に「貞観寺ニ入り，，，観楹繪八相、成道寺座主説其意，，，」の記事があり、どうやら『世界大百科事典』記事の典拠がここだと分かります。

種々の方法で他の情報をも確認した後、wikipediaに入り、「絵解き」を共同入力で、より詳しいレファレンス原本も作れます。

こんな現代に、塙検校がおられたら「Tiff画像は典拠として必要ですが、国内の重要な図書は全てテキストデータとしても保存し、我々も「聞く」ことができるようしよう！」と実践運動を興すに違いありません。

15年前に、おそらく日本で初めての「図書館利用案内PCアニメーション」を作成して新入生オリエンテーションで上映した私ですが、現在ではアクセシビリティ中心のwebサイトで、図書館利用教育として役立つようにしたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

---

## (2) 第14回図書館利用教育実践セミナーのご案内

### 図書館利用教育の新潮流

－問題発見・解決型のPBL/チュートリアル教育とその支援－

日 時：2009（平成21）年9月25日（金）18:30～21:00

会 場：日本図書館協会2階研修室

講 師：長澤多代氏（三重大学高等教育創造開発センター准教授），  
佐藤淑子氏（東京女子医科大学図書館次長）

PBL (Problem-Based Learning) は課題探求・問題解決能力の育成を基本方針とした学習方法であり、チュートリアル教育はPBLを実践するための教育形態である。図書館においても、情報検索法の指導などが中心だった従来の利用教育から、学習が事例を基に問題を発見していく過程などを支援する新しい利用教育へと変化してきている。長澤氏には、PBL・チュートリアル教育の概念と目的、欧米の事や図書館の役割などについて、また、チュートリアル教育における図書館の関わり(実例)について、十数年の実績を持つ佐藤氏にお話いただく予定である。

- 主 催：日本図書館協会 (JLA)
- 企画・運営：日本図書館協会図書館利用教育委員会
- 参加費(資料費を含む)：JLA 個人会員 500 円、それ以外 1,000 円
- 定 員：50 名(予定・先着順)
- 申込締切：2009(平成 21)年 9 月 18 日(金)
- 申込方法：電子メールにて「氏名」「氏名のヨミ」「JLA 個人会員か否か(個人会員の場合は会員番号)」「所属」「住所」「電話番号」「電子メールアドレス」を明記し、下記宛に送信してください。お申し込みをいただいた方には、事務局より、セミナー受付書をメールにて送付いたします。
- 問合せ・申込先：JLA 事務局図書館利用教育委員会担当  
(cue@jla.or.jp)
- 詳 細：図書館利用教育委員会ホームページ  
<http://www.jla.or.jp/cue/>

●申込書

-----  
《図書館利用教育実践セミナー》参加申込書：第 14 回

[2009 年 9 月 25 日(金)]

- 申込日：
- 氏名(氏名ヨミ)：
- 会員種別(いずれかに○を) [ ] JLA 個人会員 [ ] それ以外  
※JLA 個人会員の場合は会員番号 [ ] (不明な場合は空欄で可)
- 所属：
- 住所：
- 電話番号：
- 電子メール：

-----  
※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、  
今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表すること  
はありません。  
=====

### (3) 第 13 回図書館利用教育実践セミナー（in 京都）のご報告

「情報サービス専門家としての能力開発を！」開催

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

「図書館員のメディア活用力を問う—アニメ世代にどう教えるか—」  
というテーマで、JLA 利用教育委員会による恒例の京都セミナーが、3 月  
14 日（土）9 時 30 分から 13 時まで JR 京都駅前のキャンパスプラザ京都で  
行われ、139 名の参加者があった。その評価は、大変良い 43.3%，良い  
47.8%，普通 6%，無記入 3%と、「良い」評価が 90%を超えた。参加者  
の職業は、図書館員 76%，教員 14%，学生 1%，会社員 2%，その他 2%，  
記入なし 4%であった。

毎年好評のセミナーであるが、今年は「アニメ」世代をテーマに含め、  
中学校・高等学校図書館からの報告を取り入れたこともあって、学校図  
書館関係者の参加が増加した。

講師と演題は、京都学園大学の有吉末充さんによる「若者とアニメの  
特別な関係—アニメのリテラシーから学ぶ—」、梶山女学園高・中図書  
館の天野由貴さんによる「高校から大学への情報リテラシー教育をつな  
ぐ—『図書館戦争』をメディア読解の教材に変える—」であった。さら  
に、仁上幸治さん（早稲田大学図書館）は「教える側の表現力は大丈夫  
か」と題して最初に問題提起を行った。

有吉さんは、アニメの定義、発達史（「相関概略図」が貴重）、日本  
のアニメの特徴などを簡潔に述べ、天野さんは、『図書館戦争』を事例  
とし、実践している「図書館メディア・オリエンテーション問題・解答  
用紙」の紹介をした。最後に質疑応答で、活発な討論が行われた。

出典：戸田光昭「第 13 回図書館利用教育実践セミナー（in 京都）「情

報サービス専門家としての能力開発を！」開催」『図書館雑誌』Vol. 103, No. 5, 2009. 5, p. 273.

---

#### (4) 2009 年度図書館利用教育委員会事業計画

##### 1. 委員会活動

- ・ 委員会の開催
- ・ ホームページによる情報発信
- ・ メールマガジンの発行

##### 2. セミナー等の企画

- ・ 図書館利用教育実践セミナーの開催
- ・ 第 11 回図書館総合展フォーラム講演会の開催

##### 3. 出版の企画

- ・ JLA 図書館利用教育実践シリーズ
- ・ 『図書館利用教育ハンドブック：学校図書館（高等学校）版』

##### 4. 図書館利用教育委員会発足 20 周年記念事業の検討

---

#### (5) 第 171 回図書館利用教育委員会議事録

日 時：2009 年 2 月 15 日（日）15～17 時

場 所：日本図書館協会 5 階第 1 会議室

（学校図書館 WG 同時開催：第 2 会議室）

出席者：青木，天野，有吉，石川，戸田，野末，春田，和田の各委員，  
（事務局）久保木

欠席者：赤瀬，木下の各委員

##### 1. 京都セミナー企画（2009 年 3 月 14 日（土）9:30-13:00 キャンパスプラザ京都）

- ・ 担当表に基づき当日の役割，また事後報告について話し合われた。
- ・ 広報について

##### 2. メルマガについて

・ 近日中に送信する予定。

### 3. 20周年記念プロジェクトについて

(1) グッズ (図書館サービス・ツール研究会 報告)

(2) 出版計画

### 4. その他

・ 委員の異動について

・ 学校図書館 WG について

利用教育委員会委員と WG のメンバーで挨拶がかわされた。

・ 次回の委員会を、3月29日に日本図書館協会で開催

以上

---

### (6) 第172回図書館利用教育委員会議事録

日 時：2009年3月29日(日) 13～17時

場 所：日本図書館協会5階第1会議室

出席者：青木、有吉、戸田、野末、和田の各委員、(事務局)久保木

欠席者：赤瀬、天野、石川、木下、春田の各委員

#### 1. 第13回図書館利用教育実践セミナー(京都)

標記セミナーの会計・アンケート集計結果について報告があった。また、反省点や課題について討議した。次回以降の参加費については、個人会員は無料または安価に設定し、施設会員に比したメリットを明確にする方向で検討することとなった。

#### 2. 20周年記念事業プロジェクトについて

出版計画については、予定どおり、学校図書館ワーキンググループによるハンドブック出版および実践セミナーをとりまとめた「図書館実践シリーズ」の出版を行うこととした。後者については、執筆者を具体的に検討し、依頼を進めることとなった。

また、利用教育委員会のアーカイブ資料作成と利用教育委員会グッズの開発・作成についても、予定どおり進めることとなった。後者については、TLA助成金による研究グループと連携を取って進めることを確認

した。

### 3. 委員の交代

木下委員の退任と福田氏の着任が了承された。

### 4. メルマガ・ホームページの広報について

標記について、引き続き、春田委員、石川委員を中心に進めていくことを確認した。

### 5. 第11回図書館総合展（2009年11月10～12日）

標記について、参加することを確認した。ただし、セミナー形式とするかどうかは、今後、詳細を詰めることとし、TLA助成金による研究グループとの連携による方法を探ることを確認した。

### 6. 図書館利用教育ガイドライン大学図書館版のウェブ転載について

国立情報学研究所学術基盤推進部基盤企画課教育研修事業担当からの標記依頼について、了承した。

### 7. その他

委員長の交代について検討し、青木委員から野末委員への交代を検討することとなった。欠席の委員による承認をもって確定とすることとなった。

### 8. 次回（第173回）委員会日程

標記については、学校図書館ワーキンググループとの連携を図る必要があることから、別途、調整することとなった。

以上

=====

(7) 図書館サービス・ツール研究会からのお知らせ

アンケート協力をお願い（東京都図書館協会研究助成）

図書館サービス・ツール研究会（代表：石川敬史【工学院大学図書館】）では、東京都図書館協会（TLA）研究助成により「ライブラリー・グッズの調査・研究と企画・開発」というテーマで、調査・研究しています。当研究会には、図書館利用教育委員会のメンバーやOBGも加わっています



(仁上, 戸田, 青木)。現在, 葉やブックカバーなどのライブラリー・グッズについての現状調査をしています。つきましては, 貴館でのライブラリー・グッズへの取り組みについてお教えいただけませんか。ご協力の程, 何卒よろしくお願いいたします。

\* 以下の URL よりご回答ください。

● <図書館員の方へ> 作ってますか? 図書館グッズ

<http://enq-maker.com/g7Q4m22>

- ・ 締切 : 8 月 31 日
- ・ 無記名でも回答可。
- ・ 回答内容は個人的意見でも構いません。

---

(8) 図書館利用教育文献一覧 (2009 年 2 月~7 月発行分)

<<対象誌>>

『IDE 現代の高等教育』 『医学図書館』 『学校図書館』 『看護と情報』  
『現代の図書館』 『情報の科学と技術』 『大学図書館研究』 『短期大学  
図書館研究』 『薬学図書館』 『早稲田大学図書館紀要』

- ・ この文献一覧の情報は, 当委員会委員が現物により収集したものです。内容の誤りや採録されていない文献にお気づきの方は, ぜひご連絡ください。
- ・ 収録対象期間には多少ずれがあります。
- ・ 上記の雑誌以外でも必要に応じて採録しています。
- ・ 一部の文献には解題を付し、担当者の署名を末尾に記しました。
- ・ 書誌事項の先頭に館種を【大学図書館】【公共図書館】等で示し, 館種別にリストアップしました。
- ・ ◆は利用教育関連文献, ◇は少し広く採録した参考文献です。

---

【大学図書館】

- ◆伊東泰子「日本赤十字九州国際看護大学図書館における利用教育について」『看護と情報』16, 2009.3, pp.51-54.
- ◆江上敏哲「アメリカの大学図書館における情報リテラシー教育活動～ハーバード大学等の事例から」(特集:情報リテラシー)『情報の科

学と技術』59(7), 2009.7, pp.334-340.

- ◆岡部幸祐；金成真由子「図書館プロモーションビデオ『週5図書館生活、どうですか?』の企画と制作—利用案内ビデオから学生志向のプロモーションビデオへ」『大学図書館研究』85, 2009.3, pp.1-11.
- ◆加藤哲夫「図書館による学習支援の創造と展開—法科大学院の『法情報調査』を手がかりとして」(『図書館紀要』創刊五〇周年に寄せて)『早稲田大学図書館紀要』56, 2009.3, pp.29-42.
- ◆小坏守「情報リテラシーとラーニング・コモンズ：日米大学図書館における学習支援」(特集：情報リテラシー)『情報の科学と技術』59(7), 2009.7, pp.328-333.
- ◆小陳左和子「NII『学術情報リテラシー教育担当者研修』の取り組み」(特集：情報リテラシー)『情報の科学と技術』59(7), 2009.7, pp.348-352.
- ◆椎名ちか子「アメリカの大学図書館における教育活動—オハイオ州立大学図書館“Peer Library Tutors”プログラムを中心に」『大学図書館研究』85, 2009.3, pp.42-52.
- ◆関順子「香川県立保健医療大学図書館におけるオリエンテーションの現状と課題」『看護と情報』16, 2009.3, pp.55-58.
- ◆関口千登世「城西大学水田記念図書館における利用者教育について」『薬学図書館』54(1), 2009.2, pp.63-68.
- ◆瀬戸口誠「情報リテラシー教育とは何か：そのアプローチと実践について」(特集：情報リテラシー)『情報の科学と技術』59(7), 2009.7, pp.316-321.
- ◇武尾亮；遠山有紀；清水弥生子；石川敬史「共同制作からはじめる図書館広報グッズの作成 創造的な活用と共有をめざして」『大学図書館研究』85, 2009.3, pp.12-21.
- ◆辰野直子「教養教育における情報リテラシー講習会の試み」(特集第15回医学図書館研究会・継続教育コース)『医学図書館』56(2), 2009.6, pp.141-144.
- ◆中島玲子「ユーザ理解のために：学部生情報検索授業の現場から」(特集：情報リテラシー)『情報の科学と技術』59(7), 2009.7, pp.322-327.
- ◆野末俊比古「情報リテラシー教育における図書館員の役割—NII研修プログラムの背景にあるもの」『短期大学図書館研究』28, 2009.3, pp.23-32.
- ◆広沢絵里子「教育力の評価と構築に向けて—明治大学—」『IDE 現代

の高等教育』510, 2009. 5, pp. 16-21.

- ◆毛利和弘「情報リテラシー教育の実践事例と指導上の留意点(情報検索指導を主に)」『短期大学図書館研究』28, 2009. 3, pp. 37-43.
- ◆矢田俊文「エンドユーザの情報リテラシー教育：インターネットを使った研修」（特集：情報リテラシー）『情報の科学と技術』59(7), 2009. 7, pp. 341-347.
- ◆山下ユミ「事例報告 京都府立医科大学附属図書館における利用者教育について」『医学図書館』56(2), 2009. 6, pp. 156-160.

---

#### 【学校図書館】

- ◆大城善盛「司書教諭課程用のテキストの中に見られる『情報活用能力』と『メディア活用能力』に関する考察」『現代の図書館』46(4), 2008. 12, pp. 239-247.
- ◆片岩文恵「図書館の活発な利用をめざして－1年生オリエンテーションの充実」（〔特集Ⅱ〕効果的なオリエンテーション）『学校図書館』702, 2009. 4, pp. 45-47.
- ◆小林光代「悪条件でも元気をめざして『発信』し続ける図書館づくりからのオリエンテーション」（〔特集Ⅱ〕効果的なオリエンテーション）『学校図書館』702, 2009. 4, pp. 48-50.
- ◆小日向輝代「『中学校の図書館も、けっこうおもしろい』を伝えるために」（〔特集Ⅱ〕効果的なオリエンテーション）『学校図書館』702, 2009. 4, pp. 41-43.
- ◆対崎奈美子「学習課題を解決する場所、学校図書館－全国 SLA 北米学校図書館研究視察報告」『学校図書館』702, 2009. 4, pp. 81-83.
- ◆渡邊不二子「図書館へ行こう！－オリエンテーションから始まる図書館への誘い」（〔特集Ⅱ〕効果的なオリエンテーション）『学校図書館』702, 2009. 4, pp. 37-40.

---

#### 【専門図書館】

- ◆志田春海；加藤美紀；松本玲子「関西看護専門学校図書室における図書館利用教育の計画・実践・評価の試み（第2報）第2回アンケートを実施して」『看護と情報』16, 2009. 3, pp. 63-69.
  - ◆中山朋美「看護専門学校図書室における利用指導」『看護と情報』16, 2009. 3, pp. 59-62.  
(内容は、長崎市医師会看護専門学校図書室の例です)
- 
-

(9) 編集後記

第 73 号をお届けします。今号では、9 月に東京で開催される第 14 回図書館利用教育実践セミナーのご案内を掲載しました。関心のある方はぜひご参加ください。皆様のご参加をお待ちしております。 (春田)

---

(10) 図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古 : 青山学院大学教育人間科学部

(委員)

青木玲子 : 和光大学

赤瀬美穂 : 京都産業大学図書館

天野由貴 : 椋山女学園高・中図書館

有吉末充 : 京都学園大学人間文化学部

石川敬史 : 工学院大学図書館

戸田光昭 : 駿河台大学名誉教授

春田和男 : 東京家政大学人文学部

福田博同 : 跡見学園女子大学文学部

和田佳代子 : 昭和大学歯学部

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

---

< C U E > 利用教育委員会通信 第 73 号 (20 卷 1 号) 2009. 8. 6 発行

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ

[cue@jla.or.jp](mailto:cue@jla.or.jp)

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。